

第3回 ARG WI2研究会 学生報告

平成25年12月13日,14日

1 はじめに

平成25年12月13日(金), 14日(土)に, 神奈川県さくらWORKSにて第3回 ARG WI2研究会が開催された. 参加者は一般が51名, 学生が29名の合計80名であり, 両日とも活気のある発表が行われた.

2 一般発表

一日目は, マイクロブログ・SNS, ユーザ分析・パーソナライゼーション, 情報推薦と情報検索, コンテキスト・トピック分析の4つのセッションが行われた. この中で特に興味深かったものを紹介する.

吉田らの「ベイジアンネットワークによるセグメント説明モデルと映画推薦への応用」では, 新規性・意外性に富んだアイテムを推薦するために, 嗜好が似ている人同士の推薦ではなく, 年齢や性別といったユーザの属性を用いて推薦を行うことで推薦アイテムの幅を増やした. 女性は恋愛もの, 男性はアクションものといった, 性別ごとの好みや, ご年配の方は時代ものを好むなど年齢による嗜好は確かに存在し, それらを取り入れた推薦システムは, ユーザの満足度をより高めるだろうと感じた.

鈴木らの「状況を考慮した情報推薦システムの提案」では, 現在地, 時間, 天気などのユーザを取り巻く状況を考慮して嗜好情報を獲得することで, 現在の状況に最適なアイテムを推薦した. 自身も, 推薦システムを利用した際, 状況に合わないアイテムが上位に来るといった経験が多々あったので, とても着眼点に納得のできる有意義な研究であると感じた.



図1: 会場の様子. 両日とも活発な議論が行われた.

二日目は, オープンデータ, マルチメディアの2つのセッションが行われた.

山西らによる「Wikipediaの表記特徴を利用した別称コーパス生成ツールの開発」では, Wikipedia内部でのリダイレクト情報および記事の文書解析に基づき, いわゆる愛称や別称, 通称といった実際の呼称とは別の呼び名をコーパスとして収集するツールについての発表が行われた. 愛称は意見文に多く見られ, 実際の呼称は広告など企業側の宣伝によく見られるなど, 対象が同じでも呼称により使われ方が異なるといった観点は新鮮で, 興味深いと感じた. このツールでは実際に信頼度の高いコーパスが多量に得られており, 今後別称コーパスとして公開が予定されているそうである. 自身の研究にも大いに活用できるツールであるため, 今後の展開に期待したい.

山本らの「楽曲動画印象データセットの作成とその分析」では, 印象に基づく楽曲検索に関する研究を促進するため, 楽曲動画500件を対象とし, 各動画に対して8つの印象クラスに基づいて, 評価者から評価デー

タを収集していた。さらに、作成された評価データを分析し、基本的な特性について明らかにするとともに既存の印象推定手法を適用することで、印象推定における課題を明らかにした。また、こちらの研究で作成されたデータセットも、自由に利用可能な形で著者らのホームページ上で公開する予定であるという。楽曲の印象に基づく検索技術の今後の発展にも注目したい。

3 招待講演

赤倉優蔵氏と立藺理彦氏の2名による、データジャーナリズムについての講演が行われた。

データジャーナリズムとは膨大なデータを分析あるいは可視化し、そこからニュースを発見するという新しいジャーナリズムの形である。既存のジャーナリズムではデータを収集することが主な目的だったのに対し、データジャーナリズムでは収集したデータを組み合わせて分析し、読者へ届けるという過程が重要になっている。

講演では欧米や日本で行われているデータジャーナリズムの例、データジャーナリズムに利用できるツールの紹介などが行われた。可視化などの形で、読者がニュースだけでなく情報源も確認できるという発信の仕方はこれまでにない形であり、面白いと感じた。

近年、政府の統計情報など多くの電子データがインターネットで公開されつつあり、データジャーナリズムの重要性は今後高まっていくと考えられる。これからのジャーナリズムの変化を感じさせる、興味深い講演であった。

4 懇親会

一日目の研究会終了後、景徳鎮にて四川料理を囲みながらの懇親会が行われた。四川料理のぴりぴりとした辛さに舌鼓を打ちながら、活発な意見交換が行われ、大いに盛り上がった。



図 2: 四川料理を囲みながらの懇親会。



図 3: 委員長の挨拶。

5 おわりに

二日間にわたる研究会は、自身の研究分野だけでなく様々な分野の発表を聴くことができ、非常に興味深く、学ぶところの多い研究会だと感じた。また、自身の発表においても様々な意見をいただき、今後の研究をより発展させることができる機会となった。

一瀬 詩織, 小林 瑞季, 重松 遥
(お茶の水女子大学)